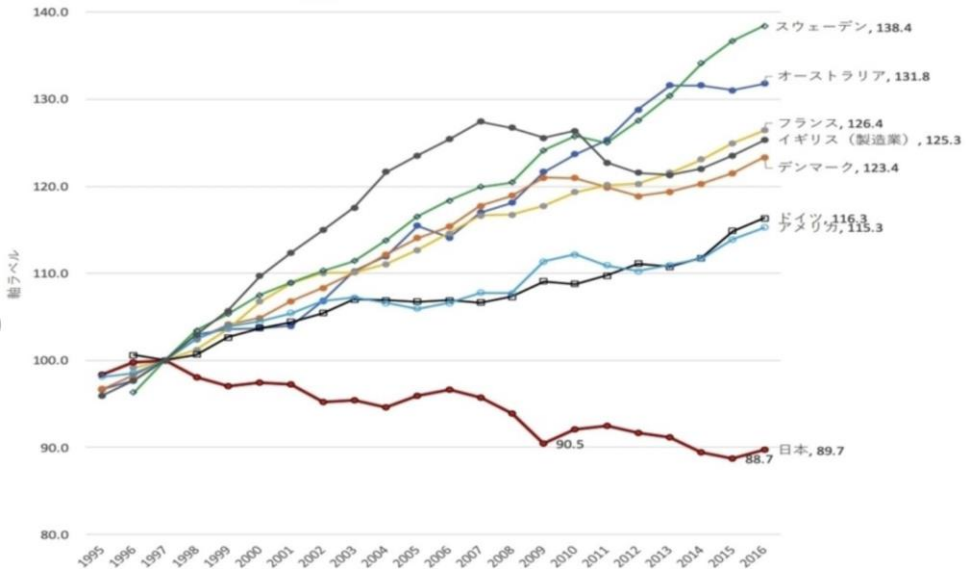




## No.78 日本でイノベーションは起きるのか



出典：oecd.statより全労連が作成（日本のデータは毎月勤労統計調査によるもの）。  
 注：民間産業の時間当たり賃金（一時金・時間外手当含む）を消費者物価指数でデフレートした。オーストラリアは2013年以降、第2・四半期と第4・四半期のデータの単純平均値。仏と独の2016年データは第1～第3・四半期の単純平均値。英は製造業のデータのみ。

実質賃金指数の推移の国際比較 ※全労連「実質賃金指数の推移の国際比較」より  
 (Yahoo ニュース(2021/10/25)biz SPA フレッシュ)

世の中DXだ、Society5.0だと、政府や経済界の掛け声は賑やかです。でも夢のような未来社会を実感できるほど変化の様子は見えません。逆に「一人も取り残さない」ようにするんだったらもっと時間をかけて、というつぶやきも聞こえてきます。

日本が世界の経済をリードすることなど、もはや夢となってしまいました。今のベクトルが変わらない限り、国民はどんどん貧しくなり、先進技術は輸入するしかなくなり、食いつなぐには過去の遺産に頼るしかない、そういう危機的状況だと私は思っています。もちろん現時点で日本より貧しい国はたくさんありますが、そこから脱却しようと上を向いて頑張る国と、貧しくなっても仕方ないと思う国とではベクトルの向きが違います。遅かれ早かれ必ず逆転するのです。

ベクトルの向きを変えるのに大事なのは生産性の向上＝イノベーションだと皆が口をそろえます。政府もオープンイノベーション促進税制とか、グリーンイノベーション基金とか、山のように政策を用意してカネを積んでいます。しかしこれまで、制度とカネを使ったという実績は残っても、これによってイノベーションが起って国民が豊かになったという実績は聞いたことがありません。



## 谷口博文の政策イノベーション

Date :2021年12月26日

なぜか。

政府の姿勢、企業の意欲、経済環境などいろいろな原因を上げるのは簡単です。でも根本的には、自分達は豊かになった、このままで十分、もう変わりたくない、変えたくないという意識が多くの国民、特に支配層である高齢者にあるからではないかと思えます。

日本に限らず昔から平時の改革というのは既得権益を持つ国民から猛反発を受けて評判が悪いです。宋の時代の王安石、江戸時代の田沼意次など国の生産力を上げようと改革を断行しても最後は失脚し、誰も誉めてくれません。命をかけて改革しようという人がいないのも仕方ない…？

逆に既得権益を守る人たちは命懸けです。自分達の豊かさの源泉を奪われて黙っているわけにはいかない。その既得権益、既存秩序を守っているのが法律です。

法律は現状を変えようとする新しいものを強制力をもって排除できます。0から1を生み出すイノベーターは間違いなく少数者です。法律を変えたくても多数決で太刀打ちできません。

民主主義の名の下に、衰退の流れを押しとどめることができないのが今の日本かもしれません。ではどうすればいいのでしょうか…(つづく)